

市 長	副市長	教育長	次 長	課 長	課長補佐	係 長	記 録
合議 回覧							

【所属名：教育委員会こども教育課・こども課】
【会議名：糸魚川市立学校教育環境整備計画
検討委員会】

☒ 開示
☐ 一部開示 (理由: 条例第 条第 号 該当)
☐ 不開示
☐ 時限不開示 (開示: 年 月 日)

会 議 録

作成日 令和 8 年 5 月 26 日

日	令和 8 年 4 月 21 日 (水)	時間	18:30 ～ 20:20	場所	市役所 2 階 201・202 会議室
件 名	第 7 回糸魚川市立学校教育環境整備計画検討委員会				
出 席 者	伊野 啓一 委員長、谷村 康 副委員長、山本 裕美 委員、猪又 浩之 委員 堀田 岩吉 委員、丸山 一大 委員、吉田阿紗子 委員、中村 博一 委員 平野 克之 委員、大瀬 孝志 委員 教育委員会 山本 喜八郎 教育次長 学校教育課 渡邊 興勝 課長、石口 昇 参事、仲谷 貴子 課長補佐 八木千佳誉 係長、満城 隆志 係長、青木 正紀 係長 欠席者 清水 達郎 委員、岡田 裕介 委員				
	傍聴者定員	人		傍聴者数	人

会議要旨

進行：仲谷課長補佐

- 1 開会
- 2 議事

進行：伊野委員長

(1) 学校の形態・施設の形態について（資料）

資料に基づき事務局から説明

(委員)

- ・校舎の不足する部分を増築とは、何が不足すると考えているのか。グラウンドなども含まれているのか。

(事務局)

- ・第 2 回の会議の際に、普通教室等の数で建物的にどの程度足りるかというところは示したが、それ以外にも職員室や特別教室など、小学生と中学生が同じ校舎で教育活動を行っていくためにそれで十分かどうかというところの視点が必要だと思っている。

グラウンドは現在、新たに整備する予定はない。プールも現在のところ、新たに整備する想定

はしておらず、市内のB&Gやはびねすを活用していくことや、水泳の授業の考え方も変わってきており、どうしてもプールに行かなければならないこともないので、そういったことも含めて考えていきたい。

(委員)

- ・それで十分足りるという想定だと思うが、体育館など共有する場所で授業数を行う場合に時間数が足りるのかどうかを考慮する必要があるのではないか。

(委員長)

- ・統合時期が令和12年度以降あるいは11年度以降ということで必ずしも統一していないが、これは準備が整った校区から進めていくという考えか。

(事務局)

- ・あくまでも施設的なことから考えたときにこの年度以降であれば許容可能ということで記載しているので、どういった学校の形なのか、小学校をどこに置くかということによっても検討に必要な期間が変わってくると思っている。市内一斉スタートということではなくて、始められる中学校区から進めるという考え方でいる。

(委員)

- ・青海中学校区には、幼稚園・小学校の連携を引き続き重視するとあるが、ほかの地域ではどうか。

(事務局)

- ・各地域、どこの小学校でも幼稚園・保育園と連携していると思っているが、青海地域にある幼稚園、保育園はすべて公立であり、連携の仕方がほかの中学校区とは異なるというところに多くの方が関心を寄せており、幼稚園と繋がることを重視したという意見だったと認識している。

(委員)

- ・幼稚園や保育園については、今回は統合するということではなく、既存の幼稚園・保育園のままとすることなのか。

(事務局)

- ・幼稚園・保育園については、本計画とは別に、以前に適正配置計画が示されている。小学校の子どもたちが少なくなるということは幼稚園・保育園も子どもが少なくなるということなので、園の統廃合も今後進めていくことになろうかと思っている。青海地域についても、現在3園あるが、いずれは統合しなければならないという話が進んでいると聞いている。

(委員)

- ・能生中学校区の場合、令和12年度に環境整備ということだが、そこまでいくとかなり子どもたちが減っていくだろうと予測されている。保護者の中から時期的に待てないという声が出てきているように聞いているので、例えばこの年度の前に、保護者から統合を望む意見が出てくれば、どのように対応するという案があれば教えてほしい。この時期まで待つのは、保護者にとってはちょっと苦しいのではないかと感じるし、どういう形で環境が整備されるかというところもいろいろな協議をしていかないとうまくいかないのではないかという思いもあり、どうなるのかと感じている。

(事務局)

- ・能生中学校区については、小規模校ではこの計画によらず別に協議していくという話が、保護

者の中で立ち上がったところである。まだ地域から具体的な話が出るという段階ではないので、地域の中で話をされているのではないかと考えている。

資料の説明の中で根知小学校の話があったが、昨年の9月に方針を作る前に、卒業するまでにもう1回統合するのは避けてほしいという要望が保護者からあって13年度にしているところである。能生地域については、計画と同時並行で進めるということを保護者にも既に説明しているが、仮に、計画期間の令和12年より前にどちらかの学校と統合していくということになれば、それは進めていく。一方で、教育環境整備計画も進めていくことになるので、場合によっては、小学校6年の間に2度、学校の名前が変わることがあり得るということを伝えている。その点も踏まえて、どこと統合するという考えが地域の中で出るものと思っている。

(委員長)

- ・市民への周知はどのような方法で、いつ頃やるのか。

(事務局)

- ・次回の委員会で計画素案を示し、6月の委員会を経て、6月の市議会に素案として報告した後、7月、8月にパブリックコメントとして市民に向けて公表し、意見募集を行うという手続きになる。その意見募集を含めて、最終的には9月に計画としてまとめてから、市議会に報告し、正式に計画として策定するというスケジュールを考えている。

(委員長)

- ・次のグループワークに入る前に情報交換を行いたい。公民館に勤めており、この話についてはいろいろな意見を聞くことが多く、おそらくほかの中学校区でもあるのではないかとと思うので、中学校区ごとに日頃聞こえてくるような意見を教えてほしい。
- ・東中学校区は、児童の減少に伴って、統合は仕方ないだろうという意見が多い。ただ、小学校が統合した場合に、小学校1年生から非常に広域の学区になる。そういったときに、その地域の中で学ぶという概念をどのように持つのだろうかという話があった。
- ・下早川小学校と大和川小学校が一緒になった場合、新しく校名を考えないといけないが、おそらく時間が相当かかるのではないかとと思われる。
- ・中学校仕様の校舎を、小学校1年生が使うことに支障がないのかという話が保護者からあった。
- ・それぞれ校風が違うので、一緒になったときにどのような教育活動が展開できるのかという声があった。
- ・教育目標について、目指す子ども像も含めた学校の核心的な部分だが、それをどうやって決めるのか。小学校、中学校と同じ目標なのか、あるいは、この小学校の目標を見ただけで9年間で想像できる、イメージできる教育目標、目指す子ども像の統一が必要なのではないかという話もあった。
- ・肯定的な意見としては、今まで東中学校区で子どもを育む会を20年近く続けて連携が非常に進んでいるので、統合や小中一貫になってもそれほど心配ないだろうという話があった。

【能生中学校区】

(委員)

- ・中能生・南能生の話を聞いているが、中能生と南能生は統合については意見が半々に分かれている。少数精鋭でいいところがあるという意見と、やっぱり人数が減っているので統合した方がいいのではないかという意見があり、アンケートを取ると半々になる。南能生については別

に動いているような話も聞くが、半々で平行線かなというような感じは聞こえてくる。

(委員)

- ・ 能生小の保護者からは、根本的に直さないままいつまでこの校舎を使い続けるのかという声がある。統合については、人数があまり減っているわけではないので、ほかの学校はどうするのだろうかという程度である。

(委員)

- ・ 保育園の保護者からは、中能生小学校はプールが使えるが、ほかの学校は使えない状態にあるということ、災害があったときにちょっと怖いと感じるときがあるという意見がある。冬場は特に行けないときもあつたりするので、平場に学校がというような声を少し聞いたことがある。人数の危機感はあまりないが、中能生と南能生が合併したとしても人数がとても少ないので、少人数制のメリットと大勢のメリットが同じくらいなのであれば、2校というよりも3校が一緒になれば一番いいのではないかと。少ないが、そういう声を聞くことはある。

【糸魚川中学校区】

(委員)

- ・ 学校と公民館が離れており、保育園と公民館の関わりが多い。学校がなくなると、人がなかなか集まらないのではないかと話が出ている。移動手段の関係で高齢者が日中、気軽に集まることが難しいので、学校に子どもがいるような保護者はまだしも、高齢者はなかなか集まらず、若い人から高齢者まで集まる公民館の役割を果たすことは難しいのではないかと感じはある。

(委員)

- ・ 周囲に聞いたところでは、やっぱりまだ先の話だという感じで、出た意見のほとんどは子どもが少ないので仕方ないのではないかとのことだった。東小学校だとけんか祭りの日は午前になっているが、それが合併したときにはどういう扱いになるのかという意見があった。そういう文化の継承はどうなるのだろうかと不安に思ったところである。

【青海中学校区】

(委員)

- ・ 先般のアンケート結果が、今考えている状況をあまり把握していないような答えが多いという感じがしたので、公民館の管理運営委員会で、今、学校はこういう状況で、こういう方針があるという話をした。初めて聞く管理運営委員会の委員もいたが、統合することは当然あり得る、概ね同意する感覚だった。

(委員)

- ・ 案で方向性の話が出たが、青海中校区は令和10年度以降で一番早いことになっているが、単純に田沢小と青海小の統合が令和10年度にと考えると早いなという印象である。それぞれまだ人数がそれなりにいるので、それよりもっと早く必要なのところがあるのではと感じた。

(事務局)

- ・ 事務局からお知らせする。
一つは、アンケート結果や、先ほど知らない方が多いという話があったように、方針について4月から6月に学校運営協議会で説明することになっている。もうすでに始めていて、6月の半ばぐらいには全学校を回り終える予定である。

もう一つは先ほど、学校が統合したときに名前がどうなるかという話もあったが、どのような学校になるかということ想像するのは、非常に興味関心を持ってもらってありがたいことだと思っている。ただ、もうこういう学校名になるなど、まだ決めていないはずの話が出てくる。例えば、校舎は田沢小学校の校舎を使う、名前は田沢小学校になるといった話が独り歩きしている地域も出てきているのではないかと非常に心配しているところである。校名については、これから計画を出した後、地域の皆さんと一緒に決めていくことを考えているので、そういった話があまり独り歩きしないしてほしいと思っている。

(2) 目指す学校の姿について（グループワーク）

グループ1 発表

- ・『ひとみかがやく日本一の子ども』の育成」では、小中9年間を見通した共通理解が必要ではないか。
- ・校区が拡大することで、特にジオパーク学習については、どこの中学校区も海から山まで校区になり、教育資源が増えるのでやりやすいし、郷土愛を育みやすくなるのではないか。
- ・「地域とともに歩む開かれた学校づくり」では、地域とともに歩むためにはいろいろな地域の意見を常に聞き、地域によるずれをなくしたり、共通理解を図っていくことは常に必要になってくるといふ部分と、校区が広がることによっていろいろなふれあいが増え、地域の中でのふれあいも増えていくのではないか。地域によるずれに関しては、今の地域の中での考え方の違いや、もしかすると昔の経緯があるのかもしれないなど、話し合いが必要である。
- ・「安全安心で豊かな教育環境の提供」では、情報の共有、学校間、地域間の共有を常にしていくことで密になる。
- ・人間形成の範囲が広がる点や、常に中学生を見ているので、中1ギャップの解消がしやすくなる部分もあるのではないか。
- ・心配な面として、通学のバス関係で、時間も限られてくるので、路線バスなりスクールバスをうまく使わないと運用しにくくなるのではないか。
- ・人間関係が固定化される、人数が小さい地域と多い地域で偏りを出ないようにすることも必要である。
- ・「全般事項」では、PTAについては、あり方を模索したり、考えていく必要があるのではないか。この間、視察で見たPTAの外注という方法もあるのか。ただ、人が増えたからといって、やることを増やしていくとうまくいかなくなるのではないか。
- ・学校名をどうやって決めていくのか。校歌など全てを新しくするのか、最終的に決めなければならないいろいろなことが出てくるが、今までそういうことも乗り越えてきて今の学校があるので、きょううまくいくのではないか。

グループ2 発表

- ・『ひとみかがやく日本一の子ども』の育成」では、キャリア教育、ジオパーク学習をメインに継続して生かした教育を提供していきたい。
キャリア教育は、より充実させて糸魚川の良さを広げていく必要があると思うが、ジオパークについてはもうちょっと広く捉えて子どもたちを学ばせていく方がいいのではないか。
- ・継続して特別支援教育も重要な課題になっていくだろう。

- ・保育園と学校の連携が大変になっていくことが心配される。
- ・「地域とともに歩む開かれた学校づくり」では、地域とのつながりとして、公民館等の組織をより一層強化していく必要が出てくることや、統廃合することで伝統の継承が難しくなっていくのではないかと。地域行事と子どもたちの関わりがまた少なくなっていく心配が出てくる。
- ・「安全安心で豊かな教育環境の提供」では、スクールバスや路線バス等が今後違う形になってくると思うが、今あるものを有効活用していくことが必要だということ。遠くから通う子どもが出てくるので、始業時間や終業時間の検討も必要になる。
- ・中一ギャップの解消が有効になる環境になると思うが、小中共通活動をより充実させてさらに解消がつながっていけるといい。
- ・「全般事項」では、単位PTAの数が減るので、活動を充実させる必要があることと、一人一人の保護者の負担が減るメリットがある。
- ・4月は学校が忙しい時期なので、4月に移転、統合スタートは学校的にかなり厳しい状況が想像される。

(委員長)

- ・校名が話題が出ていたが、実際に決めるとするとどのように決めることになるのか。

(事務局)

- ・既存の小学校を残すのか、同じ名前でも新設にするのか、全然違う名前を付けるのかは難しいと思う。ほかのところでは、校名選定委員会を開いて、アンケートを実施して集約していくところもある。計画策定後に決めていくことになるが、地域の考え方で異なってくるのではないかと。

(委員長)

- ・統合した場合にPTAの機能は維持されるのだろうか。

(委員)

- ・地区PTAの活動が活発にやっているところもあり、学校PTAはサポートするという役目でもいいのではないかとと思う。

3 その他

次回開催は5月27日(水)18:30から、第9回は6月10日(水)18:30からとする。

4 閉会

以上